

2024_0815「美ヶ原の彩雲（写真）」日々の理科 3661号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

先日、友人の小学校教員と、長野県和田峠にパーライト実験用の黒曜石を拾いに行ってきました。そのついでに、「美ヶ原」にも足をのびしました。その美ヶ原で「彩雲（さいうん）」に出会いました。

彩雲というのは、雲の水滴や氷晶に太陽光が回折して、雲の一部に色がついて見える「大気光学現象」の一種です。「太陽を雲が覆う」のではなく、「太陽から離れた場所の雲」に色がついて見えるのが特徴です。彩雲を形成するのは薄い雲だけで、主に上層雲の「巻雲」「巻層雲」「巻積雲」（いずれも氷晶雲）、「高積雲」や「片積雲」などの液体の雲粒の雲でも形成されます。

この日、彩雲を形成した雲は「尾曳巻雲（おびきけんうん）」と呼ばれる雲で、彩雲の中でも色が明瞭で美しいものでした。彩雲はすぐに消えてしまうことが多いのですが、この日の彩雲は30分以上見え続けていました。彩雲は「瑞雲」「慶雲」などの異名もあり、古来より「吉兆」とされてきました。この日、黒曜石が大収穫だったのも、この彩雲のおかげでしょう！

(2024年8月上旬／長野県美ヶ原)

